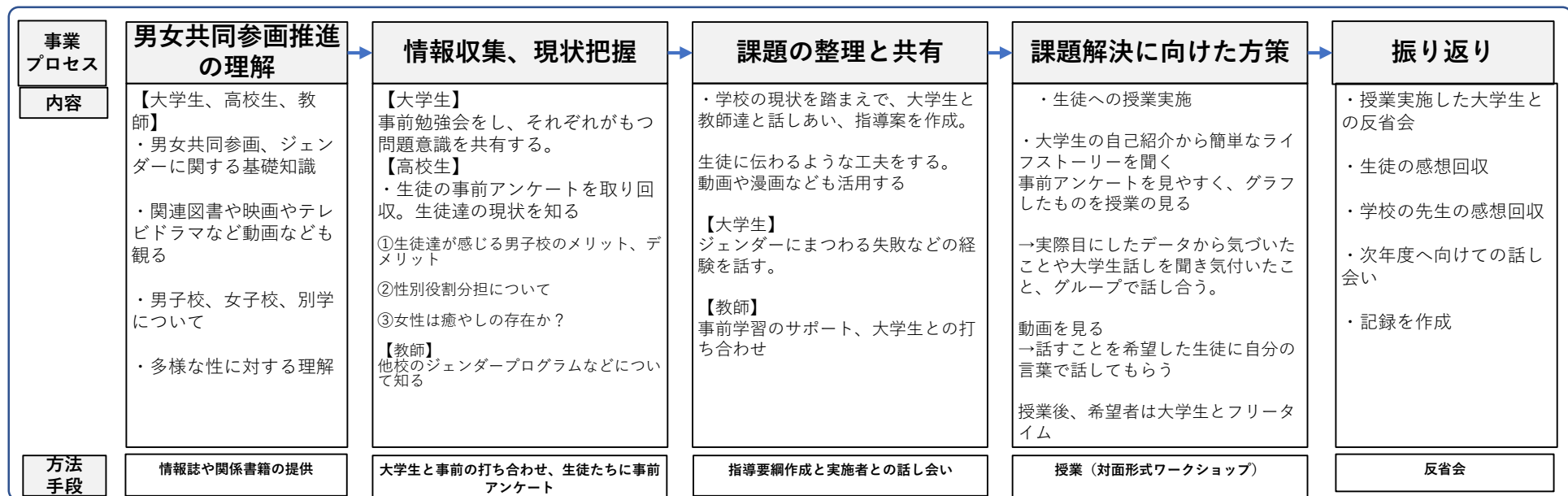


地域における男女共同参画を推進するためのプログラムデザイン

【事業名】 男子校へのジェンダー教育プログラム～大学生と共に		【位置づけ】 国立市代5次男女平等・男女共同参画推進計画 番号3 男女平等・男女共同参画を推進	
問題 現状	教員の8割も男性である中高一貫の男子校において、女性は男性のケアをし、癒やしてくれる存在だという意識があり、女性の教員にセクハラともとれる発言も日常化している。 また、ホモソーシャルは時に男子学生のプアプレッシャーにもなりうる。		
課題	男子だけであるという特殊な環境にいる教師、生徒がジェンダー視点をもつようになること。保護者にも情報を提供すること。大学との連携を一層ふかめること		
事業 目的	中高校生と大学生と交流を軸に教師と大学、男女共同参画センターが連携し、ジェンダー平等な地域づくりを目指す	対象 定員	桐朋高校1年 240名 （1クラス40名×6）授業はクラスごと
事業 目標	私立男子校での実践を元にコンテンツとして完成させ、市内公立中学や高校へにも提案し各学校に導入する。	評価 指標	生徒感想（60％）大学生感想（30％）、保護者アンケート



連携先	一橋大学 桐朋学園	期間 回数	教員向け研修2回 生徒6回 保護者向け講演1回
予算	)	実施 体制	主催 進行 パラソル 一橋大学 場所 桐朋学園